

「ICT機器活用」グループ

コミュニケーショングループ：柏葉真紀、高橋奈輔子、千葉友夏
内記裕美、菅原健造

重度重複グループ：伊藤沙也香、佐藤陽子、及川 香、松野貴美子

教科グループ：小野寺晴満、伊藤宏子、阿部 薫、小山より子
小須田朋子、後藤晃子、佐藤京子、佐々木祐子
佐々木裕大、佐藤里美、高橋尚憲、千葉登志美
横田美枝子、田高美佳、中村和弘、及川よりこ
石坂直康

1 研究テーマ

「ICTを活用した授業づくりをめざして」

※研究目的 ICTの活用方法について学び、授業に取り入れることで、本校の児童生徒の実態に即した効果的な活用に向けての課題を探る。

2 研究内容

(1) 活用方法の学び

iPadを中心としたICT機器活用の基礎的な研修を行う。

(2) 授業や指導場面での活用

小グループごとにテーマを立て、取り組み方法を考える。

ア 小グループ・コミュニケーション

テーマ 「コミュニケーションにおけるICTの活用について」

方法 ICT機器やアプリの情報収集と授業での活用について実践を通して検討する。

イ 小グループ・重度・重複

テーマ 「重度重複障がい児童・生徒のICT機器活用について」

方法 ICT機器やアプリの情報収集とiPad操作研修、及び一人一事例を持ち寄る情報の交換並びに成果・課題の協議を行う。

ウ 小グループ・教科

テーマ 「教科におけるICT活用について」

方法 一人(または何人かで組み)一事例を持ち寄り、情報交換並びに成果・課題の協議を行う。

3 研究経過

月日	コミュニケーション	重度重複	教科	資料配付
28. 5.11(水)	研究テーマについて 小グループ分け			①活用の考え方
28. 6.15(水)	iPad利用講習会			②できることできないこと
28. 7.11(月)	小グループのテーマ、内容、研究計画			資料索引 アンケート結果
28. 8.25(木)	授業での実践 検討	iPadの使い方 アプリの紹介	3事例を協議	③アクセシビリティ機能 ④基本操作⑤おすすめアプリ
28. 9.14(水)	授業研究会の 協議	1事例を協議 パンフ閲覧	4事例を協議	パンフレットの 紹介
28.10.20(木)	授業での実践 報告・検討	4事例を協議 (11.7(月))	5事例を協議	
28.11.21(月)	中間報告会にむけて			
28.12.26(月)	全体研究会(中間報告会)			
29. 1.30(月)	小グループのまとめ			
	課題別グループのまとめ			

4 成果と課題

(1) 本年度の成果と課題

研究内容の2本柱である「活用方法の学び」「授業や指導場面での活用」について、以下の観点で話し合いを行った。

- ICT、iPadの研修について
 - ・個々のスキルアップはどのようにしてきたか。
 - ・グループ研または職場全体での研修・環境はどうだったか。
 - ・今後は何が必要か。要望等
- 授業や指導場面での活用
 - ・授業に取り入れるに当たって、または、授業に使ってみてどうだったか。
 - ・難しかったこと、やりたくてもできなかったこと
 - ・今後は何が必要か。要望等

	成果	課題
活用方法の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で得た情報を活用できた。また、必要に応じて個人でも情報収集をした。 ・資料の中で「事例」がとても参考になった。 	<p>① 個人スキルの差、研修会の必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人のスキルが違う。そのためそれぞれのもつ課題が違う。 ・まずは触れてみる、毎日使い慣れることが必要である。 ・レベルや目的に応じた内容での研修会があると良い。 ・外部講師、校内資源の活用により、詳しい人にはどんどん教えてもらいたい。 <p>② 資料収集、保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要とする資料がそれぞれ違う。資料を校内ネットワークフォルダに保存しておくことでそれぞれが必要な資料を必要な時に使うことができる。しかし、意識をしていないと見ずに終わるおそれもある。
授業や指導場面での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は、iPadへの関心があった。使おうとする意欲が高かった。 ・ICT機器を使うことで、学習が苦手な生徒の興味を引き出すことができた ・検索だけでなく、生徒自身が考える学習ができた。 ・視覚支援としての使用が有効であった。 ・難しいアプリを使おうとすると教師側も楽しめなくなる。多くの人が薦めるアプリは受け入れやすかった。 ・分からなくても使うことで課題が見えてくる。また、周りの人を刺激しICT機器を使おうという雰囲気づくりにもなる。 	<p>① 個人スキル、身体状況の違い、意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒側にも個人差がある。 ・児童生徒も慣れる必要がある。 ・興味がある児童生徒は意欲を高めやすいが、iPadを意識していない児童生徒への提示・使用をどうするか。 ・上肢が動き自分で使いたい児童にはやりがいとなるが、自分で操作できない場合はどうするか。 ・自分で操作をしている感覚を大切にしたいが使う位置の工夫や補助的道具の工夫に難しさがある。 <p>② ルールの必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用のルールをしっかりと決める。指導する。 <p>③ アプリ選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの選定に関わって、教材研究を自由に行いたい。 ・アプリ申請されたものの一覧など、情報共有をしたい。 <p>④ ICT機器、iPadの「効果的」活用とは</p>

		・ iPad の良さとは何か。アナログ教材と対比し良さを生かし切れていないのではないか。
要望等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外学習などで外に持って行きたい。 ・ 壊した時の対応、予防策(保険、強化シートなどの保護グッズ)はどうしたら良いか。 ・ 写真のやりとりや印刷などに効率の悪さがある。 ・ 小中学部の iPad の場合、学習の情報や個人使用のアプリの管理はどうしたらよいか。 ・ 高等部ではローマ字入力での課題がある。 	

(2) 次年度に向けて

本年度の成果と課題を受けて、次のように考えたい。

- ア 教師や児童生徒のニーズにも配慮しながら、研修を継続する。方法として図書や資料及び実践例の収集と紹介を引き続き行いながら、外部講師による研修会、校内資源の活用、グループ内及び校内の情報交換の方法についても検討し取り組みたい。
- イ 授業や指導場面での活用実践を継続すると共に、授業研究会を設定し、参観もしくはビデオによる授業研究を行いたい。

ICT 機器の効果的な活用について、実践を通して考えるとともに、ICT 及び iPad 関連の情報や要望等についてグループから発信していきたいと考えている。